

ミニ市場公募債を発行する自治体が続出!!

地方自治体が期待を寄せる ミニ市場公募債の実力は？

地方財政が厳しさを増すなか、全国の地方自治体が新たな財源」として大きな期待を寄せているのが、ミニ市場公募債だ。購入する住民側も、利率が高いことや、行政への参画意識向上につながる」と、評判は上々だ。はたして、公募債で地域力はアップするか。

町村レベルでも発行
できる市場公募債

「ミニ市場公募債」 そんな公募債を、全国の都道府県や市町村が、相次いで発行している。

ミニ市場公募債は地方債で、民間から資金調達する市場公募債の一種だ。市場公募債が「16の都道府県と13の政令指定都市が発行する地方債で購入対象者も機関投資家を中心」（総務省自治財政局地方債課）なのに対し、

ミニ市場公募債は、「購入対象者が発行自治体在住の住民に限定されている」（同）うえ、発行総額も市場公募債よりも低額のため、町村レベルでも発行できるのが特色だ。

総務省によれば、発行自治体は「03年度末で80団体ぐらいいは到達しそうで、発行総額も2600億円台になるのではない」（前出・自治財政局地方債課）と予測。02年度実績の34団体、1636億円と比較しても大幅な増加になるのは間違いない。

ではなぜ、ミニ市場公募債が人気を集めるようになったのだろうか。

まず、自治体側の事情だが、

「01年度の財政投融资改革以降、政府資金を自治体が借りることもできなくなってきたため、自分たちで資金を調達しなければならなくなってきた」（同）ことが大きい。

これに加えて、「地域住民に出資してもらうことで、地方行政に参画し、関心を持ってもらう」

（ある自治体幹部）というネライもある。

一方、購入する住民側からも人気を集めている最大の理由は、「銀行預金などに比べ、利回りが高いことや元利保証がされていること。また債権なので預金とは異なり、ペイオフ対策にもなっているのではないか」（前出・総務省自治財政局地方債課）と。

実際、すでに発行されているミニ市場公募債の利率を見ると、0・3%以上のもが目立ち、なかには1・0%を超えているものも。同公募債を発行する自治体側の事情と、購入する側の住民のニーズとがうまく噛み合っているといえる。

特別養護老人ホーム建て替えに活用する西伯町

では、ミニ市場公募債にはどんなものがあるのだろうか。病院や学校、公園や福祉施設といったインフラ整備のために、この種の債権が発行されるようだ。

例えば、鳥取県西伯町が03年4月に発行した「まちづくり西伯町民債」は、町単位のミニ市

西伯町のミニ市場公募債券100万円分。
満期分の利札がついている



高知市「龍馬債」の募集チラシ



場公募債としては全国初のものとして、発行当時は大いに注目を集めた。

対象事業は、同町内にある特別養護老人ホーム「西伯有楽苑」の建て替えだ。人口わずか6000人規模の同町がミニ市場公募債発行に踏み切った理由について、同町総務課の藤原幸氏はこう説明する。

「本町では、従来から様々な形で行政施策への住民参画に取り組んできており、同時に福祉施策に力を入れてきた。こうした経緯のもと、住民の方々にさらに町行政に関心を持って参画していただくために、ミニ市場公募債の発行に踏み切ることを決めた」と。

町長の坂本昭文氏は、福祉施策に熱心な自治体で結成する「福祉自治体ユニット」のメンバーとしても知られるだけに、実際、発行に対する住民の反響も大きかったようだ。

利率0・3%で発行総額は5000万円。最低購入額は10万円からとし、購入限度額は100万円に設定したところ、申込は232人で、総額1億8530万円にも達した（前出・藤原氏）というから凄い。

結局、抽選で63人に絞ったが、その平均購入額は79万4000円と、かなり高額ラインに達した。「利率はもちろん魅力があるが、自分の資金が町の施策に反映されることのほうが嬉しいという声も、購入された町民の方からいただいている」（同）という。

このほか、高知市では郷土の偉人・坂本龍馬にちなんだ「龍馬債」（発行規模3億円、利率0・79%）を発行。「坂本龍馬の生誕地周辺の整備事業に活用す

る」（同市財政課）と。千葉市では公園整備に「ちば市民債」を発行。ちば市民債は、利率1・04%の高利率、30億円という発行規模ながら募集開始の翌日には完売したという。

求められる発行自治体の積極的な信用情報開示

もっとも、ミニ市場公募債には「満期前に解約すれば、購入時の価格を下回り、元本割れする恐れがある」（前出・総務省自治財政局地方債課）。また、金額が小さいとはいえ、地方財政が逼迫しているだけに「発行する自治体側が積極的に信用情報を開示したり、購入する住民側がそれをチェックすることも必要」（金融アナリスト）になるだろう。

とまれ、地方自治体の民間からの資金調達本格化しているようだ。地域住民にとっては、公募債を購入することで蓄財意識が高まり、行政への参加意識が高まることに。「ミニ市場公募債」は、地方分権時代にあって、地方財政の確保のあり方を示しているのかもしれない。

3月以降のミニ市場公募債の発行予定

発行日	発行団体	名称	発行額：億円	利率	対象事業
3月中	石川県	ふるさとしかわ債	10（予定）	未定	学校の整備（予定）
2月25日	愛知県	平成15年度第2回あいち県民債	100		愛知万博開催にあわせて行う交通網の整備事業など
3月25日	長崎県	ながさき創造債	30	未定	歴史文化博物館などの文化施設の建設や県立高校の改修
3月30日	習志野市（千葉県）	はばたき債	3	0.70%	保育室の増室、放課後児童会室の増設、天然ガス車の購入、公園整備、都市計画道路の整備
3月25日	十日町市（新潟県）	十日町市げんき債	1	0.62%	十日町市子育て支援センター「くるる」、十日町市精神障害者地域生活支援センターの整備
3月25日	長野市（長野県）	ながの市民債	5	未定	小中学校の学校建設
3月25日	吹田市（大阪府）	吹田市民さわやか債	6	未定	味舌水路整備事業、消防本部西消防所合同庁舎建設事業
3月25日	世田谷区（東京都）	第1回せたがや区民債	5	未定	環境対策、成城四丁目の緑地購入
4月30日	松山市（愛媛県）	『坂の上の雲まちづくり債』	5.5	未定	坂の上の雲のまちづくり関連事業。松山城周辺整備、坂の上の雲記念館の創設事業、道後温泉の周辺回遊道路の整備
5月下旬（予定）	熊野市（三重県）	ささゆり熊野市民債	0.319	未定	廃棄物処理事業。資源ゴミのストックヤード